

音楽の世界

Monthly journal "The World of Music"

1963年10月14日第三種郵便認可
第53巻6号 通巻559号
2014年7月1日発行
(毎月1回1日発行)

ISSN 1342-5463

音楽家が自ら作るマンスリージャーナル

2014 年
7 月号

特集

《いま音大を問う(予備編)》
(中島洋一・会員のアンケート回答)

グラビア 作曲部会 作品展 2014

論壇 音楽作品の価値 中島 恒雄

リレー連載 未来の音楽人へ(15) 恵藤 久美子

海外リポート 第8回ウラジオストク国際音楽コンクール 今瀬 康夫

連載

歌の道・我が音楽人生(6) 久住 祐実男

音・雑記—ひなの里通信—(69) 狭間 壮

名曲喫茶の片隅から(50) 宮本 英世

音盤奇譚(55) 板倉 重雄

電子楽器レポート(16) 阿方 俊

人・アート・思考塾(4) 小西 徹郎

音楽時評 音楽の条件について～本会作曲部会公演を聴いて考えたこと

助川 敏弥

コンサート・リポート ピアノ部会“華麗なる響宴” 北條 直彦



ピアノ部会 “華麗なる響宴” より 2014年6月13日 東京オペラシティ リサイタルホール

銀座オペラ Vol.3 “イル・トロヴァトーレ”ハイライト

—エレクトーンソロ伴奏によるチャレンジ—

研究：阿方 俊

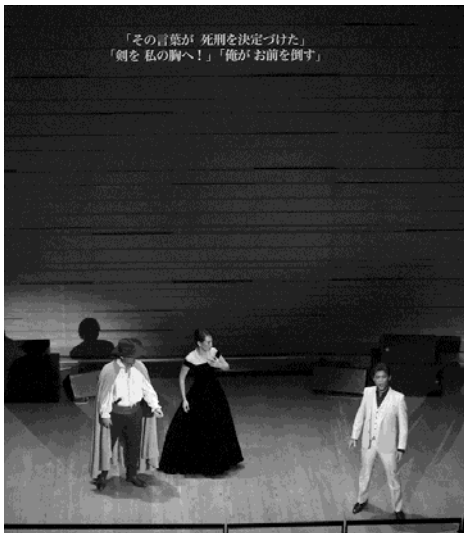
銀座オペラ Vol.3 “イル・トロヴァトーレ”ハイライト（4月9、10日、ヤマハホール）の初日を観た。何とんでもここで挙げられるべきは、クラシック音楽用に作られた響きのよい小ホールならではの歌手の声の美しさと音量が堪能できたことであろう。以前、エレクトーンシティ渋谷（100数十名の小ホール）でのオペラハイライト公演のアンケートの中に「ミラノ・スカラ座のNHKホールでの公演もすばらしかったが、ここでの歌い手の声は大ホールと違った身近さのためスカラ座の公演にも劣らない感激をし、オペラを堪能することができた」いうものがあったが、当日のカーテンコールにも有名なオペラ劇場の公演に匹敵する拍手がみられた。出演者は小川里美（レオノーラ）、鳥木弥生（アズチーナ）、笛田博昭（マンリーコ）、与那城敬（ルーナ伯爵）といった海外公演も多い二期会・藤原歌劇団のスター歌手に清水のりこ（エレクトーン）、弥勒忠史（演出）が加わったもの。

この「銀座オペラ」シリーズの特徴のひとつであるエレクトーンソロによるオペラハイライト公演の実現に一役買ったのが清水のりこさんである。そのきっかけは、いろいろな歌手と共演してきた彼女が、2年前にヤマハホールで今回の出演者の大半が出演したトスカ（彼女の自主公演）にある。これを聴いた指揮者の井上道義さんが当時のヤマハ広報部の三木部長に「これは面白い。やってみる価値があるのではないか」と印象を語ったのがきっかけの一つとなり、「銀座オペラ」シリーズが昨年9月、カルメンではじまった。ドン・ホセに異色のテノール歌手として売れっ子の秋川雅史を起用するなど話題になった。



写真左は、二重唱を歌う小川里美と笛田博昭。フォルテの箇所では、大ホールでは起こり得ない音量感が空間を圧倒していた。これも、他では味わえないこのホールの売りになるのではないかと思ったくらいである。写真右は、ステージ向かって左奥で演奏する清水のりこ。通常オペラ公演では指揮者がいて全体を統率する

が、このシリーズでは指揮者がいない。「それだけにより客観性をもった演奏が求められる」と彼女があるインタビューで述べているが当然のことと思う。ある種の指揮者の要素も鑑みながらの演奏が求められる。



次にステージを見てみる。写真左の字幕もこのシリーズの特徴のひとつに上げられるが、小ホールで大道具がないため、大ホールのように字幕を見るために歌手から目をそらすことなく音楽を聴きながら筋を追うことができる。欲を言えば、字幕をもう少し下へ降ろした方がよいとも思われた。しかし、聴衆の中には字幕が音楽を阻害するものと考える人もいるので難しい問題であるかも知れない。



またステージに関する今後の課題として、エレクトーンの位置をどこにするのかがある。今回はステージに向かって左奥に客席から鍵盤が見えないように、すなわち演奏が見えないように設置されていた。これと対照的に先回の連載-15で紹介した愛の妙薬の場合は下の写真のようにステージ右手に演奏者の演奏が視覚に入るように真横に置かれていた。

これには次のような理由がある。前者の場合は、演劇的要素を全面に出し、エレクトーンはステージの上にあるがオーケストラピットに入っているように考える。後者は、ホールオペラであるから、エレクトーンはオーケストラと同様にステージ上で視覚的にも同じ立場をとるものであり、音楽的要素を優先したものである。

2月の愛の妙薬の後、3月には同じヤマハホールでミラノ・スカラ座やパリ・オペラ座で活躍するマリーナ・コンパラートを迎えて（エレクトーン：渡辺睦樹）のコンサート、4月にはエレクトーンが加わったハイブリッドオーケストラによるカルメンが帝国ホテルのオペラ&ディナーで藤原歌劇団が公演するなど、オペラ劇場外のオペラが多く公演される時代になってきている。

この「銀座オペラ」シリーズが小ホールオペラのあり方をいろいろな形で試みて、全国、ひいては世界発信していくことを願う。

（あがた・すぐる 本研究会員）